

第7回Point-of-Care超音波研究会領域別企画

第7回は、運動器、腹部、心臓の3領域の講演となります。

注) 座長・演者は変更のある場合がございます。あらかじめご了承ください。

領域企画1：運動器

2019年7月27日(土) PM 2:50～ (運動器企画)		
企画名：あつ！と驚く末梢神経障害の診方、治し方～SC-HRとNSC-HR～		
内容：末梢神経周囲のanchoringによって生じる“痛み”・“しびれ”は日常診療で数多く遭遇します。診断の基本は臨床テストと超音波検査による標的神経の同定、治療の基本は超音波ガイド下ハイドロリリースHydro-Release: HRです。臨床テストでは末梢神経圧迫テストNerve Compression Test: NTT (直接法・間接法)、末梢神経伸張テストNerve Tension Test、そしてScratch Collapse Test: SCTが診断や治療効果判定に役立ちます。古い教科書の知識しかないと未だに意味ない「まず、レントゲン(放射線依存)」、「はい、NSAIDs・メコパラミン・etc(薬物依存)」をやってしまう・・・今では恥ずかしい医療行為がもしもありません。2019年大ブレイクのSC-HRとNSC-HRについて、ライブを交え解説します。		
氏名	所属	
座長 小淵 岳恒	福井大学 地域医療高度化教育研究センター	
座長 松崎 正史	ソニックジャパン(株)	
演者 皆川 洋至	医療法人城東整形外科	
演者 都竹 伸哉	医療法人城東整形外科	

領域企画2：腹部

2019年7月28日(日) AM 10:00～ (腹部企画)		
企画名：シーン別POCUSの実際		
内容：腹部はブラックボックスと言われており、臓器の多様性ととも症状も多岐に及ぶ。診断の基本は詳細な病歴聴取と身体所見の把握にあることは論を待たないが、POCUSを用いることで疑っていた疾患の存在を即座に確認できるのみならず、想定外の疾患が発見されることもまれではない。これまで本研究会において腹部領域POCUSプロトコールは急性腹痛を主たる対象として取り上げてきたが、実際には現場の数だけPOCUSは存在する。そこで今回のシンポジウムでは各現場におけるPOCUSの有用性について論ずる。それぞれの状況で遭遇する症状または症候においてどこを見れば良いか、そしてどのような異常が見つかるのか、さらにPOCUSの限界があるとすればどのような状況かなど参加者にとって実践的な内容にしたい。		
氏名	所属	
座長 畠 二郎	川崎医科大学 検査診断学	
座長 真弓 俊彦	産業医科大学 救急医学講座	
演者 今村 祐志	川崎医科大学 検査診断学	
演者 畠 二郎	川崎医科大学 検査診断学	
演者 杉本 博行	小牧市民病院	
演者 竹井 寛和	東京都立小児総合医療センター 救命救急科	
演者 豊田 英樹	ハッピー胃腸クリニック	

領域企画3：心臓

2019年28日(日) PM1:40～ (心臓企画)		
企画名：POCUSによるショックの鑑別診断“The RUSH Exam”		
内容：ショック患者の診断と初期治療は正確に迅速に行う必要があり、初期評価にPOCUSを用いると診断が正確になることが示されています。ショックのプロトコールであるThe RUSH Examは“ポンプ”心臓の評価から始まり、“タンク”体腔そして“パイプ”血管の評価を順次行うPOCUSであり、FOCUS+FAST+血管エコーとも言える有用なツールです。ここではThe RUSH Examを各領域の専門家にエコーライブを交えながら解説して頂きます。		
1. ショックの分類 (15分) : 泉 佑樹		
2. Pumpのみかた (20分) : 出雲 昌樹		
3. Tankのみかた (20分) : 亀田 徹		
4. Pipesのみかた (20分) : 和田 靖明		
5. 総まとめ, Q&A (15分) : 山田 博胤		
氏名	所属	
座長 泉 佑樹	榊原記念病院循環器内科	
座長 山田 博胤	徳島大学大学院医歯薬学研究部地域循環器内科学	
演者 出雲 昌樹	聖マリアンナ医科大学 循環器内科	
演者 亀田 徹	安曇野赤十字病院・救急科	
演者 和田 靖明	山口大学医学部附属病院検査部	